

## 第27回 PI外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日 時：平成15年11月4日（火） 午後7時00分～9時10分

2. 会 場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：25名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬）、武田 佳登（練馬）、宿澤 藤子（杉並）、土肥 紀久（杉並）  
濱本 勇三（武蔵野）、村田 あが（武蔵野）、新 守一（三鷹）、富澤 和也（三鷹）  
遠藤 好照（調布）、川原 徳重（調布）、渡辺 俊明（調布）、橋本 妙子（狛江）  
江崎 美枝子（世田谷）、栗林 勝彦（世田谷）

地方自治体

菱山 栄二（杉並区部長）、塩沢 忠彦（武蔵野市部長）、柴田 直樹（三鷹市部長）  
新谷 景一（調布市部長）、大川 宗男（狛江市部長）、栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官）、伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）  
道家 孝行（東京都外かく環状道路担当部長）、宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約60名

5. 概 要：

【大臣発言について】

- ・石原大臣は、10月31日の定例記者会見でICについて発言。
- ・「早く造るためには、0ICがベース。必要なICは、十分議論が必要。」
- ・「青梅街道ICは、その有無で整備のスピードが5年以上違ってくる。」
- ・「早く整備するための一つの知恵として、当面はICを造らないことを基本とし、住民の意見を聞くべき」と発言。
- ・今回の発言は、PI協議会軽視ではなく、一つの考え方であり、話し合いをしていくという進め方に変わりはない。
- ・平成14年11月の「有識者委員会最終提言」及び国と都の平成15年1月、3月の方針にある「IC無しを基本に検討を進める。設置については地元の意見を把握する。」との方針に変わりはない。
- ・大臣の発言では「スピードの観点から問題提起をした」と述べられており、その観点の重要性も踏まえて、今後の議論を進めさせていただきたいと考えている。
- ・その他のICについては、3月の方針にも「ICについては、JCT構造の一体的活用について検討する」としている。一体的に活用したICであれば、本線整備のスピードに大きな変化はないと考えている。

【環境調査について】

- ・首都圏全体での将来交通配分について、外環ができた場合とできない場合で示していただきたい。
- ・三鷹市は東京都知事に提出した環境影響評価方法書に対する市長意見書を公開しているが、他の区市も公開していただきたい。
- ・方法書に対する住民意見書の全てを公開して欲しい。
- ・個々の意見書については、個人情報保護の観点から公表できない。意見書の概要については前回協議会で提示した。
- ・協議員以外の地域の住民や団体、専門家等をエリア懇談会に参加させたい。
- ・エリア懇談会の開催までの期間が短く、地元住民や団体の意見を把握する時間が足りなかった。
- ・協議員以外の参加や開催時期等については、エリア毎に相談し決めていきたい。

【ルートについて】

- ・外環のルートはなぜこの地域に必要なのか明確にして欲しい。
- ・環八直下のルートや、現在のルートより西側のルートもあるのではないか。
- ・これから行う環境調査の結果をもとに、ルートを考えるのはどうか。
- ・高架構造から地下構造への変更は、一定の評価ができる。
- ・ルートを他の位置にすると、その地域で新たな話し合いが必要となる。現在行っている協議会で外環のPIを完結すべき。
- ・PIの場で東京西部のこの地域に外環が必要かの議論をさせていただいており、外環が必要であるならば、現在の都計ルートを基本に考えていきたい。首都圏の各高速道路が概ね完成に近づいており、接続の位置、距離、等を考えると現在のルートが適切と考えている。別ルートで新たに移転等の影響を出すことなく、開削区域は、極力現都計区域内にしなければならないと考える。
- ・仮にルートを他の位置にすれば現在提示している移転棟数を遙かに上まわると考える。

【その他】

- ・大深度は地震の被害を受けにくいと思うが、地上部付近になると影響が大きくなるのではないか。
- ・JCTのみ設置の場合、トンネル走行車線下の避難路の距離が長くなるのではないか。
- ・協議会がいつまで続くのか、中長期的なスケジュールを教えて欲しい。
- ・都市計画区域内の建物の建設はどうなるのか。
- ・都市計画法の規定により、移転容易な木造等の建築物については、建築が許可される。